立命館司法犯罪心理の会

Forensic and Criminal Psychology Student Research Societies of Ritsumeikan

課題と目的

現在、立命館大学には、人間科学研究所に関わる司法関連の学術・研究機関として「えん罪救済センター」や総合心理学部/人間科学研究科に「司法面接支援室」があるが、分野によって研究が独立しているため研究機関内の学生同士の交流は少ない。また、法学と心理学の両分野が連携して行っている講義も大学院のみで開講し、1講座しかないため、研究科を越えた大学院生同士の交流の場が少ないと言える。そもそも大学院生以上でないと研究機関に所属することが難しいため、学部生の段階から研究に触れる機会を得られる場が必要であると考えられる。さらに、ゼミや研究室以外で自身の研究の成果を気軽に相談し、発表できる環境は自主ゼミという形で開催できるが、その場合であってもつてがない限り他研究科院生との交流は難しい。

そこで本研究会では、学生に法学・犯罪学・心理学の分野をより身近に感じられるような環境づくりや自身の今後の研究のきっかけとなる場の提供、を目的としている。具体的には、⑴心理学を軸にした法学・犯罪学研究のための円滑な研究活動の場の提供、⑵学部・学年や研究科を越えた学生同士の交流、⑶研究成果の学内・学外発信のためのスキル向上、の3つを目的とする。

研究会活動

【定期的な研究会の実施】

本研究会が発足されてから秋学期の間に16回もの研究会を実施してきました。

主に、法と心理学に関する読書会や研究計画の立案、実験のデータ検討、論文の添削を行い、学部生から研究員まで幅広く参加できるようなテーマで実施しました。

【勉強会の開催】

定期的な研究会の開催の中で、不足している知識や興味のあるテーマについて研究者を講師としてお招きし、勉強会を開催しました。

勉強会では一橋大学法学研究科教授の緑大輔先生をお招きして、「司法面接の法的な課題」というテーマで1時間のご講演をしていただきました。

研究成果と今後の活動

【学会での個人発表】

個人の研究成果として、

学会発表が8件（日本心理学会、法と心理学会）

論文投稿が1件（立命館人間科学研究　in press）

その他発表が5件（法と心理学会主催のオンライン研究会）

の多くの成果を出しました。

主な研究テーマ

- 司法面接研究
- CPB(カメラ・パースペクティブ・バイアス)研究
- 出院者/出所者支援研究
- 司法取引研究
- 裁判員裁判の評議プロセス研究
- 道徳判断研究・少年犯罪研究

【今後の活動】

コロナ禍により勉強会は対面ではなくオンラインで開催し、施設見学も実施できませんでした。

そこで、関西圏内にある少年院・鑑別所・刑務所等への施設見学、を実施し、その成果について学会で報告することを今後の目標として活動していきます。

大阪法務少年支援センター
（大阪少年鑑別所）

浪速少年院